

次の50年を目指して会員一同力を合わせてがんばりましょう

公益社団法人 東京都ベストコントロール協会 会長 玉田 昭男

新年明けましておめでとうございます。皆様にはご健勝でことのほか清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は尼崎市で6月9日にヒアリが確認されてから次々と各地の港湾で発見され、関係者はヒアリ・アカカミアリに振り回されました。

7月下旬に東京都港湾局から大井、品川、青海の各埠頭に設置した粘着トラップの回収と、捕獲したアリの1次鑑別の依頼が当協会にありました。幸いなことにヒアリ・アカカミアリは発見されず関係者一同安堵しました。また東京港湾施設で就業する事業者等を対象としてヒアリ等特定外来生物対策講習会を8月と9月の2回開催しました。

上記の調査とは別に環境省はヒアリの生息国等からのコンテナ貨物を扱う全国68港湾を対象に8月、9月、10月と3次にわたり調査を行うこととなり(公社)日本ベストコントロール協会・関係県協会、港湾管理者が担当しました。

11月9日(木)、10日(金)には元木貢理事が大会長、当協会が実行委員会となり第33回日本ペストロジー学会東京大会を開催しました。今回の東京大会は過去の大会とは異なり参加対象者を会員だけに限ることなく、多くの都民や自治体職員に参加をいただき、ベストコントロールに関する最新の情報発信を図ることで地域の衛生的かつ快適な生活環境の推進に寄与する場となることを目指しました。また自治体である武蔵野市と共催することも初めての試みでした。

課題は残りしましたが、ベストコントロール業界の発展のためには今後の学会開催における試金石となったのではないかと考えています。

本年は(公社)東京都ベストコントロール協会創立50周年の年となります。法人格が任意の団体、一般社団、公益社団へと変遷しましたが、一貫して都民の生活環境の向上と感染症の発生予防・まん延の防止に力を注いで来ました。

温暖化、グローバリゼーションにより地球上の有害生物の細菌及びウイルスが侵入してきています。今後は、有害生物の防除とともに細菌及びウイルスにも対応できるPCOでないと評価されない時代となるでしょう。

本年は、50年を締めくくる年であります。

都民の健康と福祉の向上に寄与する協会であり続けるために協会員一同さらに力を合わせて頑張りましょう。

結びにあたりまして、本年も引き続き協会運営にご指導とご協力をお願いし、皆様のご健康とご活躍の年になりますよう祈念して新年のご挨拶といたします。